

古都薫る王朝絵巻

華やか天平祭開幕



平城京天平祭のハイライト、約4000人の天平行列がムードを盛り上げた
3日、奈良市の平城宮跡

あすまで平城宮跡

好天に恵まれたゴールデンウィーク後半初日の3日、奈良市の平城宮跡（特別史跡）で「平城京天平祭・春」が開幕、華やかな天平行列が繰り広げられた。ステージイベントや奈良のグルメを堪能する東市・西市、ガイドツアーも行われ、会場は初日から大勢の家族連れ、観光客らでにぎわった。5日まで3日間の日程で、主催者の実行委員会などは期間中、昨年を上回る5万人の人数を予想している。

時代行列や グルメ堪能

平城宮跡には巨大な花のオブジェ「MIHANA」など、全国からの来場者を出迎える趣向が凝らされ、午前11時には天平行列がスタート。朱雀門から第一次大極殿まで、奈良時代の歴代天皇や貴族、女官に扮（ふん）した約400人が、華やかな古代衣装でゆっ

くりと練り歩いた。同行列は今年から県内の主な企業、大学の協力を得て実施され、奈良時代から平安にかけての衣装の変遷を楽しむことも。ミス奈良が扮した元明天皇が南門前で輿（こし）を降りて行列とともに歩むと、観光客の人垣から一斉にカメラのシャッター音が鳴り響いた。

平城京天平祭の会場

復興支援をPR

東北から出店

岩手の食材／魚網ミサンガ

は、奈良ならではのあり、茶会やガイドツアーなども。また東院は天平祭ステージが設けられ、東市・西市に体験できるコーナーも

では、東日本大震災の被災地で復興活動を続ける「いわて三陸復興食堂」と「浜のミサンガ」の出店した「いわて三陸復興食堂」と「浜のミサンガ」のブース3日、奈良市の平城宮跡



復興支援のため出店した「いわて三陸復興食堂」と「浜のミサンガ」のブース3日、奈良市の平城宮跡

ンガ「環（たまき）」がブースを出店。奈良女子大付属中等教育学校の生徒ら「復興支援を考える有志生徒の会」やボランティアら

約40人が後押しし、復興支援を熱くPRした。岩手県産の食材などを使ったメニューで現地の様子を伝える「復興食堂」と、魚網を使ったミサンガ作りを続ける「環」。

「有志生徒の会」は公益社団法人「ソーシヤル・サイエンス・ラボ」（川井徳子理事長）を介して出店を支援しており、同校の藤田若奈さん（17）は「東北のことを、奈良の人々にもっと知らせたい」と話していた。

2013年5月4日(土)
奈良新聞 朝刊 掲載